

「公園」で

人と命をつないでく

住みよいまち・

本郷町3丁目地区協議会（中区）



（右）本郷町3丁目第二町内会

会長 福住 賢次

（左）住みよいまち・本郷町

3丁目地区協議会

会長 飯尾 満



まちの地形による課題

一緒に解決を目指して

本郷町3丁目の地区は市の中心部に近いこともあり、戦前から便利な住宅地として発展してきました。それゆえ、敷地は次第に分割狭小化され、建築基準が定められる前にできた住宅自体も老朽化が進み、木造密集地域での災害時の火災や家屋の倒壊、崖地が多く土砂災害の心配など防災上に課題がありました。

また、街区内はミニバスがやっと入れる幅の狭い道路であり、急坂が多い特徴があります。また、平地での「公園」がなく、子どもたちが集まり伸び伸びと遊べるような安全な場所がありませんでした。

これらの課題を共通にもっていた第1町内会及び第2町内会で合同の協議会を立ち上げました。協議会では災害時の減災を図る活動及び具体的な整備などに向けて、お互いに勉強会を開催し始めました。

そのなかで、現「ガス山公園」の場所にかつて横浜市瓦斯局の施設があり、その後民間のガス会社の用地となった場所であることから、企業と住民の協力を得て、行政と連携して公園整備が始まりました。「ガス山公園」は両者がかつ課題の解決となるような「災害時に一時避難できる場所」及び「子どもが集まって遊べるような場所」として平成24年5月に整備されました。

安全で快適なまちづくり 住民一体で「公園」づくり



ガス山公園をつくる際には、園内のトイレを設置することも含めて住民にアンケートを実施しました。多くの意見を集めながら、地域へ広く周知していくことで理解を得ながら整備を進めました。

実際に整備された後は、積極的に住民に呼びかけを行って防災訓練を実施したり、人々が気軽に集まれるようなきつかけづくりとして、ラジオ体操などのイベントを開催しています。

園内には、子どもたちが自由に遊べるような広い空間だけでなく、公園の名物となった長い滑り台も長く愛されています。また、お年寄り向けの健康遊具もあり、年代問わずに利用できる場所となっています。

地域まちづくりプラン

地域のまちづくりの目標・方針、課題解決に向けた取組などを、地域まちづくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、市長が認定したものです。



ガス山公園を中心とした、 自助共助の防災活動

公園は、災害発生時、地域防災拠点（大鳥小学校）に避難するまでの間、一時的に避難する場所「いつとき避難場所」として利用されます。

公園には防災対策の整備として、「かまどベンチ」を設置。普段は休憩用のベンチとして使用され、有事の際に上部の板を取り外して「かまど」として利用できるものです。他にも防災倉庫や地下水を利用した仮設トイレが設置されました。（写真①）

整備に限らず、地域が主催する防災訓練では、お年寄りの方から子どもまでの参観者が集まり、避難後を想定した炊き出しを行います。（写真②）

また、園内での防災活動として横浜市立大学の学生と連携して「地震後のまち・暮らし」というテーマのもと、防災訓練を実施。段ボールで原寸の仮設住宅を作って展示したり、防災工作としてラントンの作り方を地域の子どもたちに教えるイベントを開催しました。テーマに沿った様々な防災イベントを実施して、最大百人ほどの住民が集まったときもありました。（写真③）

公園でのイベントは、防災活動だけでなく、地域住民が交流する機会として、子どもたちが多く参加する夏祭りや自転車の乗り方講座なども開催され、普段から「地域で集まる場」として広く知られるようになりました。（写真④）

さらにそこで築いた住民同士のつながりを活かしながら、地域独自の地区内の各町に沿った防災対策本「イエローブック」を作成し全戸配布しています。自宅で保管しやすいA5版の冊子で、避難時の行動だけでなく、「自助」としての備えもわかりやすく記載されています。また、「共助」の取組として、被災時に玄関先に黄色い布を掲示することで周囲へ自身の安否を迅速に伝えるための工夫された取組が行われています（写真⑤）。



作り上げたコミュニティが、 命を助ける

まちの宝である「ガス山公園」やこの地区には、市内のタクシーで「ガスヤマ」と伝えると間違いないくらい来れるそうです。住居表示ではないですが、周辺住民だけでなく多くの人に知られている場所だと福住さんは誇らしげに話してくれました。公園には、イベントが開催されていなくても多くの子どもたちが賑わっています。また、日ごろから清掃や花壇の植替えを行い、きれいに保つことで、季節により美しい景観が見られます。みんなで大切にしてきた公園は開園してから10周年を迎え、令和4年11月にその功績が市に表彰されました。（写真⑥）

飯尾さんは、今後のまちづくりで「さらに人と人のコミュニティを成熟させたい」と話します。「防災に強いまちづくりが主軸だが、優れたコミュニティは災害後の復旧も早いと思っている。地域には、人と人が助け合う仕組みが必要で、これは防災面だけでなく、お互いに気持ちよく暮らせるまち、安心して暮らせるまち、次世代の子供達に誇れるまちにつながると思っている」と熱く語ってくれた。

今後も公園を中心に住民同士がつながることで、お互いに安心安全な暮らしを守っていく活動が続いていくと期待されます。

